



地域と交流、地域が支援 「通学合宿」



子どもを取り巻く社会環境が問題となり、家庭、学校、地域社会のあり方が問われる中、学校と地域社会が協力し、子どもたちを健全に育成しようという「学社融合」の取り組みが注目されています。ここでは、本市で昨年より実施されている「通学合宿」をご紹介します。



生までで、期間は4泊5日。地区の公立公民館などに宿泊し、その地域住民のお世話を受けながら、共同で炊事や洗濯など日常生活を体験するものです。
昨年度は3小学校、ことは6月から10月にかけて19小学校で実施されました。
今回は、9月に中央公民館で実施された大久保小学校と、宮地区公民館で実施された宮小学校の通学合宿をご紹介します。

6時	起床、朝食準備
7時	朝食、集団登校
15時	集団下校、(郷土学習)
17時	買い物、掃除、洗濯
19時	調理、夕食、後片付け
21時	もらい風呂
22時	班会議、学習
就寝	

んが納得できるような方法で決めました。

児童の自主性に任せた献立

係決めの後は、1班1日2千円の予算で5日分の献立を考えました。「食べたい料理」「自分たちでも作れる献立」の意見を出し合いました。が、班内の意見がまとまらず、班長さんが頭を抱える場面もありました。どの班でも、人気メニューは、カレーライスやシチューでしたが、大久保小学校6



年の平田希さんの班では、「最終日の夕食は、残った材料を使ってしまおうようにチャールンにしよう」という意見がまとまりました。



登校も仲良く集団で(大久保小学校)

班ごとに役割分担

中央公民館では、通学合宿の初日に、参加した20人の児童が4つの班に分かれ、各班内で買い物、調理、洗濯、掃除の仕事を分担する係を決めることになりました。

大久保小学校5年生・中川大輔君の班では、希望者が集中した係は、希望者同士がじゃんけんをして、み

地域の人の 助言を受けながら 共同生活開始

食事

児童の作った朝食を市長も試食(中央公民館)



班ごとに工夫したさまざまな料理が並ぶ夕食(中央公民館)



買物

みんなで近所のスーパーへ買物に



調理



分からないことは、世話役さんに尋ねながら調理(写真上・中央公民館、写真右・宮地区公民館)



2人分を仲良く洗濯する児童(宮地区公民館)

失敗もありました 初めての調理や洗濯

通学合宿中の児童は、放課後の塾やスポーツ活動には参加できません。下校後は、それぞれの係ごとに掃除洗濯、買物、炊事などの家事が待っています。

事前のアンケートで、「家庭で調理の手伝いをする」という児童が少なかったこともあり、大久保小学校の場合は、ゆで卵の殻が割れて中身が出たり、生卵を床に落としたりのハプニングもありました。

宮小学校のある班では、白玉団子の粉に水を入れ過ぎてしまいました。

どうしようも困っていると、世話役のお母さんが、余分な水分を吸収させるために、キッチンペーパーをろ紙として使うといいよとアドバイス。楽しみにしていた白玉団子入りのフルーツポンチを、どうにかおいしく味わうことができました。

児童にとっては、洗濯も大切な家事の一つ。

大久保小学校の男子児童は、洗濯物の適量分が分らず、衣類を入れ過ぎて洗濯機の回転が止まってしまったりという失敗もありました。止まっていることに気付かず、初日は4時間を無駄にしたそうです。

「もらい風呂ありがとう」 提供家庭で和やかに交流

通学合宿の目的の一つに、「地域との交流を図る」ことがあります。中央地区、宮地区の両公民館とも近所の好意で、「もらい風呂」をしました。お風呂提供者と児童との会話が弾み、合宿場所への帰宅時間に遅れてしまつこともありました。

大久保小学校は、近所の銭湯を利用した初日を除く3日間、宮小学校は4日間を地域の協力による「もらい風呂」で過ごしました。

「おやすみなさい」と 世話役さんも一緒に寝泊り

夜は子どもたちだけで宿泊するわけではありません。中央地区、宮地区の両公民館とも地域から男女それぞれ1人ずつ、または2人ずつが子どもたちと一緒に和室に泊まり、急病など緊急の場合に備えました。